

日本映画衛星放送株式会社 第22回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成22年11月9日(火) 16時～17時
2. 開催場所 : 東京都江東区青海2-4-24
株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング内 大会議室
3. 委員の出席 : 委員総数7名 / 出席委員数7名
出席委員の氏名(敬称略) ; 今村昭(石上三登志)・菊地実・坂井保之・曽根和子・田保橋淳・
鳥居美砂・西正
放送事業者側出席者氏名 ; 常務取締役 酒井彰
編成部部长 宮川朋之・編成部チーフ 樋渡典英
番審担当 高岡幸代(記)
4. 議題 : 時代劇専門チャンネル オリジナル番組『『鬼平犯科帳』ハイビジョン化の裏側』
「時代劇法廷 被告人は服部半蔵」について

5. 議題の概要 :

『『鬼平犯科帳』ハイビジョン化の裏側』については、ハイビジョン化の工程や画面サイズの変更工程や、もとの作品を損なわないように丁寧にハイビジョン化を行っていることを説明するとともに、ハイビジョン版の魅力を紹介し、放送への期待を高めることを目的として制作した。「時代劇法廷 被告人は服部半蔵」については、インタビューなどの従来からある編成作品との連動番組の枠組みをこえた、オリジナル番組単体としても楽しめる番組として制作した。今後のオリジナル番組のあり方を含め、当番組についての審議を行う。

事前にオリジナル番組 「『鬼平犯科帳』ハイビジョン化の裏側」 「時代劇法廷 被告人は服部半蔵」のVTRを送付し、ご視聴いただいたうえで審議を行った。

6. 審議内容 :

『『鬼平犯科帳』ハイビジョン化の裏側』について

< 審議委員意見 >

- ・ 10分番組では、簡単過ぎるのではないのか。もっと丁寧に作るべきではないか。番組の活性化に繋がるならやった方がよいと思う。
- ・ どこまで一般視聴者が興味をもつかなと思う。どうせやるならもっと丁寧にやってもらいたい。15分か20分の帯にしても良かったのではないか。
- ・ 映像や技術に興味がある視聴者には、こういう番組がたまにあっても良いのかもしれないが、時代劇を楽しみたい視聴者には、この番組があってもなくても何分放送してもどちらでもよい。
- ・ はっきり見えているのが視聴者にとって大事な要素である。10分は短い。予告編であれば問題ないが、本編ならもう少し膨らませた方がよい。
- ・ デジタルの人が出てくるのではなく、アナログの人が出てくるのがとてもよい。裏方の人達が、

デジタルを賛成している。これはものすごい説得力だと思う。

- ・ ハイビジョン化に伴い、サイズをリニューアルすることに抵抗感がある人に対して、作った番組としては、よく出来ていると思う。10分というのは非常によい。
- ・ 4:3が16:9になって、映ってなかったところが映ると聞いた瞬間に凄いと思い、「鬼平犯科帳」ハイビジョン化を試みようと思った。

<事業者回答>

番宣番組なのか、オリジナル番組なのか、制作スタンスがはっきりしないところに問題があると思った。加入者倍増を図るために、何か新しい番宣番組を作りたい、ハイビジョン化の工程を分かっていたら、番組視聴に結び付けていきたいと思った訳だが、演出的にも番組的にも稚拙な部分があった。オリジナル番組というには、オリジナル性が足らず、番宣番組としてはオリジナル風に装っているところが中途半端になった。

「時代劇法廷 被告人は服部半蔵」について

<審議委員意見>

- ・ 最初に判断するのは難しいが、蓄積として、手を替え、品を替えやっていった方がよいと思う。
- ・ オリジナル番組を作るのは素晴らしい事である。試みは良いが、演出が陳腐である。
- ・ 蘊蓄を語っているわけでもないし、ドタバタして演技とは言えない。
- ・ 流す番組のプロモーション的にしか見えない。独立したオリジナル番組として見られなかった。別のオリジナル番組をちゃんと作ればもっと良い番組が作れたのではないか。
- ・ コンセプトが非常に明解である。番宣で良いと思う。人物紹介としては、主役を裁判という形で解剖して詳しく見せるのは、新しい手だと思い感心してみた。
- ・ 題材が難しいが、番組が始まるので致し方ないのだろう。流れとしてはよいと思った。番宣としては、非常に良く出来ている。

<事業者回答>

10年間ワンパターン化してきているので、もう少し違う方法で、あるシリーズを見てもらうための工夫が出来ないかという事で「時代劇法廷」が出来た。色々とお話を伺い、番宣と番組の境界線をしっかりもたないとダメだと思った。次へのステップに活かしたい。

7. その他の参考事項：特になし

以 上